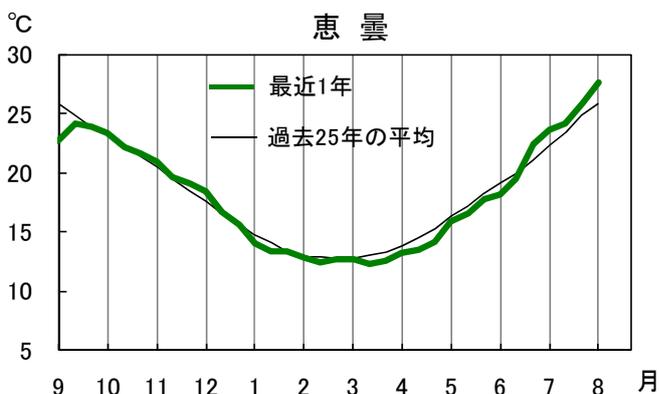
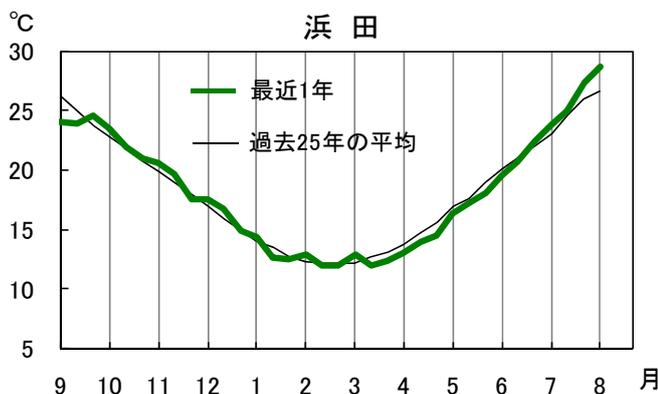




《7～8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	25.4℃	+0.8℃	やや高め
恵曇	24.6℃	+1.0℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区及び恵曇地区とも7月上旬は「やや高め」でしたが、中旬は「平年並み」で経過しました。7月下旬以降は8月上旬時点で両地区とも「やや高め」で経過しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区、西郷地区及び浦郷地区ともマアジ主体の漁況でした。マアジの漁獲量は平年の1.3倍～1.7倍と好調であったため、総漁獲量は各地区とも平年並み～平年を上回りました。ただし、マアジの主漁期にあたる5月以降の3地区の累計漁獲量は約7千トンで、春先から海水温の昇温が遅めであった影響を受け、主漁期を通しては平年(約9千トン)をやや下回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではケンサキイカ主体の漁況で、その漁獲量は平年並み(平年比92%)でしたが、スルメイカが平年の3割と低調であったため、総漁獲量は平年の6割に留まりました。西郷地区(属人5トン以上)ではスルメイカからケンサキイカ主体の漁況に移り、ケンサキイカの漁獲量は平年の1.5倍でしたが、スルメイカが平年の4%と極めて低調であったため、総漁獲量は平年の3割に留まりました。

【バイかご漁業】

石見地区バイかご漁業の総漁獲量は37.2トンで、不漁であった前年を29%上回りましたが、平年を6%下回りました。エッチェウバイは銘柄「大」を主体に漁獲され、漁獲量は31.8トン、1隻1航海当たりの漁獲量は512kgであり、1隻1航海当たりの漁獲量は前年を9%、平年を3%上回りました。

【シイラまき網漁業】

石見地区のシイラまき網漁業はシイラ主体の漁況で、その漁獲量は平年の3割でした。1隻1航海当たりの総漁獲量は692kgと平年の5割であったことに加え、例年シイラと共に漁獲されるヒラマサの来遊が少なかったこと(漁獲量の平年比3%)も影響し出漁日数が平年の6割に止まったことが原因です。

【定置網漁業】

石見地区の漁獲量は、1統当りでは、マアジが前年の4割と低調であったため、全統の総漁獲量は前年の4割に止まりました。出雲地区の1統当りでは、マアジが平年の6割と低調であったため、全統の総漁獲量は平年の5割に止まりました。隠岐地区の1統当りでは、ブリが平年の4.5倍と好調でしたが、マアジが平年の4割と低調であったため、全統の総漁獲量は平年並でした。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、メダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は17kgで平年並みでした。出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は18kgで平年並みでした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、メダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は23kgで平年並みでした。

【平成 22 年 7 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ	377トン	87%	119%	10.2トン	80%	111%	○
	西郷	マアジ	2,635トン	62%	103%	24.2トン	53%	90%	○
	浦郷	マアジ	1,895トン	70%	119%	20.8トン	56%	99%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	27トン	179%	62%	108 kg	167%	71%	▲
	西郷	ケンサキイカ	9トン	111%	30%	30 kg	43%	18%	▲
バイかご	久手	エッチュウバイ	26トン	151%	108%	713 kg	122%	115%	○
シイラまき	和江	シイラ	29トン	96%	27%	734 kg	120%	54%	▲
定置網 (大型)	浜田	マアジ	20トン	50%	53%	851 kg	50%	55%	▲
	美保関	マアジ	86トン	50%	47%	825 kg	51%	45%	▲
	浦郷	ブリ、マアジ	63トン	227%	191%	2,181 kg	203%	175%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	14トン	94%	89%	23 kg	75%	83%	○
	大社	ケンサキイカ、ブリ、サワラ類	6トン	94%	73%	12 kg	84%	87%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ	17トン	137%	101%	32 kg	96%	99%	○

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下